

平成30年度 第3回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 平成30年11月26日（月）15時00分から16時30分まで
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 9階 特別会議室
- 3 出席者 **【委員】**（50音順・敬称略）
池谷 孝、内川麻衣子、遠藤知里、大橋正行、小林祐太、設楽和宏、
杉山君子、鳴海恵理子、村越 真、村田真一、望月勇志、山之上誠
【事務局】
（スポーツ振興課）
稲葉参与兼スポーツ振興課長、戸田課長補佐兼施設第1係長、
池田主幹兼スポーツ振興係長、三矢施設第2係長、野末主任主事、
室井主任主事、村松主任主事
（スポーツ交流課）
望月スポーツ交流課長、長澤参事兼課長補佐（スポーツツーリズム推進
係長事務取扱）、山野井ホームタウン推進係長、前澤参事兼高校総体推
進室長
- 4 欠席者 片岡佳美、佐藤栄作、仁科 斉
- 5 傍聴者 1名
- 6 議 題 （1）静岡市スポーツ推進計画改訂（案）について
- 7 会議概要

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

<開会>

稲葉参与兼スポーツ振興課長

<挨拶>

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

- ・会議成立（委員半数以上の出席により会議成立）

村越会長

- ・会議の公開
事前の傍聴希望者：1名 傍聴を認める。<異議なし>
当日の会議録は、市のホームページに掲載、情報公開する。<異議なし>
- ・会議録署名人の選出 内川委員<承諾・異議なし>
- ・配布資料の確認

議事（1）静岡市スポーツ推進計画改訂（案）について【資料1、2】

室井主任主事

- ・ 前回、中間見直しの構成の大枠を説明した。今回はその中身についてお示しするもの。
- ・ 「資料1」について。表紙が改訂版の目次になっており、改訂版（案）としてご覧いただきたい。「序章」を含め、第1章から第4章までの構成である。
- ・ 「序章」には、見直しの背景や趣旨、今年度行った市民意識調査の結果及び課題、そして、それらを踏まえた改訂にあたっての変更点をまとめている。
- ・ 各章は、計画の基本的な考え方や連携体制、具体的な取り組みについてまとめている。赤字部分がこの改定で新たに盛り込む内容である。
- ・ まず、2ページ以降に今年度実施した市民意識調査の結果をまとめている。
- ・ そのまとめとして、25ページから、課題に対する取り組み、社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境の変化に対する取り組みをまとめている。
- ・ 27ページが改訂にあたっての3つの変更点。
 - 1つ目は、「運動・スポーツの捉え方の意識改革、「スポーツ・イン・ライフ」の実践」
運動・スポーツの捉え方の意識改革を行うため、当計画においても「スポーツの意義と定義」を明記するもの。
 - 2つ目は、「計画実現に向けた連携・協働体制の強化」
高度化・多様化する市民ニーズに対応するため、外郭団体や民間事業者等との連携・協働体制を強化していく。これについて、計画に明確に位置付けるもの。
 - 3つ目は、「各柱における主な取り組み事業の整理」
市民意識調査に基づき、計画に位置付けられていた6つの施策の柱ごとに、事業改善などの整理を行った。また、各施策の実効性を高めるため、施策の柱ごとに新たな指標を設定する。
- ・ 29ページは、スポーツの意義と定義について。新しく盛り込む内容である。
競技スポーツだけではなく、日常生活の中で意識的に行っている散歩、通勤時の自転車利用、ひと駅歩きなどの身体活動などもスポーツと定義する。これにより、スポーツは生活に身近なものであるという意識を共有し、「スポーツ・イン・ライフ」を推進していく。
- ・ 31ページは、「第2章 計画の実現に向けた連携・協働体制」
計画改訂にあたっての変更点のとおり加えたもの。民間事業者との連携については、事業の中でも新たに「民間活力の活用」を組み入れている。
- ・ 34ページ「計画の構成表」は、黄色枠が新たに設定した「施策の柱」の指標である。
- ・ 36ページ「事業の整理表」は、赤字部分が今回の見直しで変更している部分。柱4「ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進」では、ターゲットを明確に細分化している。
- ・ 「資料2」が、具体的事業の一覧。色付け（赤・黄色）は、計画に新たに位置付ける事業。現段階では、改訂前104事業に対して改訂後は184事業となり、再掲含めた増減数は80事業である。

村越会長

- ・ 今回の中間見直しでは、計画の理念や目標、6つの施策の柱を継承しながら、今年度実施した「スポーツに関する市民意識調査」の結果等を踏まえた対応が盛り込まれている。
- ・ 前半、後半に分けて審議したいと思うが、まず始めに、25、26ページの「スポーツに関する市民意識調査結果等の課題」と、「課題に対する主な取り組み事業」に関して、ご質問やご意見はあるか。

<委員からの質問>

大橋委員

- ・ 「資料1」2ページ、成人の運動・スポーツ実施状況の部分で、目標とする指標が「週1回以上」と「週3回以上」があるが、週3回以上の情報が記載していないのはなぜか。

室井主任主事

- ・ ご指摘のとおり、計画では週3回以上の実施率の目標値があり、成人は35%である。今回、大人については、まずは週1回以上の実施率の向上が目標であるため、週1回のみ記載とされていた。

大橋委員

- ・ 目標を定めている以上は、記載しておいた方がよい。
- ・ 3ページ、「最も行われている運動・スポーツ」の部分。「日常生活で意識的に身体を動かすこと」と「筋力トレーニング」は割合が異なるが、この文章ではウォーキングの次に同じ割合のように読めてしまう。順位があるのであれば書き方の工夫を。
- ・ 同じ部分だが、「前回調査との比較では…」の部分が無くても文章が通じるため、不要ではないか。

室井主任主事

- ・ 週3回の目標値は追記する。また、文章の表現については検討させていただく。

村田委員

- ・ 6ページと8ページのグラフは、見やすさを考えてこのようにしていると思うが、複数回答で100%にならないので、見せ方の工夫が必要だと思う。正確には、各世代全ての回答項目がある方が正しいグラフになる。

村越会長

- ・ 我々の見やすさという点では、具体的にこの項目が多いということがわかる。ここは、再度書きぶりを調整いただくということをお願いする。

大橋委員

- ・ 考え方について。調査結果の分析で、「同程度」や「同傾向」という言い方が多い。目安としてどう捉えたのかお聞きしたい。例えば5ページ。前回調査結果と比較し、「この結果は前回調査と同傾向」としているが、前回調査で最も多い回答は「健康維持・増進、ダイエット」であり、今回は「健康のため」なので、「同傾向」とするのに抵抗を感じた。その辺りの意図があれば教えてほしい。

室井主任主事

- ・ まず、回答の選択肢が前回と同じではないので、その違いはある。
- ・ 5ページの例で言うと、回答の上位が健康志向を意識したものと考えられることから、このような表現とした。こちらについても書きぶりは検討させていただく。

村越会長

- ・ 捉え方は人により違うため、少し言葉を補ってもいいかもしれない。

設楽委員

- ・ 22 ページ、学校の運動部活動について。「少子化により団体競技の選択肢が減っていることが1つの要因」とあるが、卓球部が最も多いという結果が予想外だった。「少子化により団体競技の選択肢が減っている」というのが、部活動の数で「チームスポーツが減っている」というような具体的なデータに基づいて言っているものか。

室井主任主事

- ・ 具体的データに基づくものではなく、あくまで想定である。
- ・ アンケート対象の学校は抽出校で、前回とは異なる。学校により部活動の種類は異なることから、その違いも考えられる。

山之上委員

- ・ 24 ページ、競技会場で直接観戦した種目について。「観戦したことがない」と回答した割合は前回と大きな差がある。理由は何かあるのか。

望月課長

- ・ 考えられる要因は、まずプロ野球について。この調査をした時期はどちらも7月だが、平成25年度は上旬に公式戦が2試合開催されていた。平成30年度も2試合開催されたが、1試合は調査後の開催であった。そのため、試合の時期も1つの要因かと考えられる。また、平成25年度のDNAの試合は、DNAが小学生に対して積極的に学校へチラシを配布し呼び込みをしていた。これらも影響しているかもしれない。
- ・ その他、前回調査した学校は草薙球場に近い学校もあり、子どもだけで野球を観に行けることも考えられるため、調査した地区による影響もあるかもしれない。

- ・ Jリーグについては、もう少し研究をしてみないと現時点で要因はわからない。

池谷委員

- ・ このアンケートの取り方について。スポーツの種目や盛んさによる地域性があると思うので、その取り方によって違うのではないか。Jリーグの話でいうと、同じ時期にアンケートをとっても、チームの成績や選手のクオリティによっても結果が異なるだろう。例えば、活躍している選手がいたら観に行くなど。アンケートは、同じエリアや対象でアンケートを取っていたら変化も見えるし、逆に変化しない部分も見えると思う。

村越会長

- ・ 社会人は抽出調査だと思うが、子どもは学校単位での調査なので、その影響はあるかもしれない。その辺りは少し書き足していただいて、そこからわかる要因も書いておくと、なぜこういう結果になったのかという解釈はしやすいと思う。

池谷委員

- ・ 26 ページに、「社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境の変化に対する取り組み」とある。アンケートの後追いも大事だと思うが、10年後、20年後、社会の変化に伴ってスポーツ環境がどう変わっていくのかという視点が必要ではないか。
- ・ 大人のスポーツに対する状況を見ると、ポジティブな年代とネガティブな年代がある。高齢者は、どちらかというとながティブで、健康維持や病気をしないというような感じになってくる。若い人はポジティブな部分が多いと思うが、そこは分けて考えた方がわかりやすいかなという感想を持っている。

村越委員

- ・ 具体的にはどのあたりに書き足すのが適切だと考えられるか。

池谷委員

- ・ 26 ページに詳細は書いてあるので、環境の変化の部分にアイデアがあれば書き足すと良いかと。環境の変化は予想なので、確実なことは書けないと思うが、必ず書き足してほしいということではない。

三矢係長

- ・ この見直しについては、あくまでも後期4年間という縛りの中のものになるので、「長期的」というのが4年先という部分がある。また、局内の中でもスポーツをどう捉えるのかという議論がある。例えば、eスポーツなどのマインドスポーツをスポーツとして捉えて行政でやっていくべきかどうか。現時点では、eスポーツは、目標を定めて行政が取り組むべきものではないという判断をしている。この計画の理念は、「スポーツの推進による健康で豊かな生活の実現」であることから、今のところフィジカルスポーツを対象としている。

山之上委員

- ・ 25 ページ、「要因③ 無関心・面倒くさい」について、これらの対応策が、「スポーツとは異なる側面から興味・関心を引くような働きかけ」とあるが、具体的にはどういうことか。

室井主任主事

- ・ 具体的には、スポーツと「観光」や「食」などの他分野を組み合わせたイベントを開催したり、スポーツ施設でスポーツ以外のイベントを開催することなど。スポーツに興味がない人に対して、スポーツとは異なる側面から働きかけを行うことである。

山之上委員

- ・ 字が多くなるが、「異なる側面」の具体的内容を入れたほうがわかりやすいかもしれない

村越会長

- ・ そこは検討いただき、どんな異なる側面があるかという部分を書いていただくという事でお願いする。
- ・ では、後半に入る。27 ページ、「改定の変更点」の部分について。ポイントは3つ。
 - 1つ目は、運動・スポーツの捉え方の意識改革を図る取り組みを強化していくこと。
 - 2つ目は、計画実現に向け、スポーツに関する外郭団体や民間事業者等との連携・協働体制を強化していくこと。
 - 3つ目は、各取り組み事業について、継続する事業、改善を加える事業、新たに取り組む事業などを整理したこと、また、各柱の実効性を高めるために、柱ごとの指標を設定したこと。
- ・ この改定の変更点について、ご質問やご意見をいただきたい。

大橋委員

- ・ スポーツの定義について。競技スポーツと日常生活の身体活動も含めてスポーツと定義することだが、指標の書き方が「週1回以上の運動・スポーツの実施率」である。「運動・スポーツ」が「スポーツ」に集約されると思っていたが、運動という言葉が残ることが良いかどうか。「スポーツの実施率」としてもいいように感じる。ただ、中間見直しなので表現は変えられないということであればそれで良い。

村越会長

- ・ 中間見直しなので、目標のカテゴリーを変えるというのは難しいかもしれないが、どうか。

稲葉課長

- ・ この中間見直しでは、日常の活動も含めて皆さんに身体を動かしていただく、という考え方である。表現上「スポーツ」だけがいいのか、「運動・スポーツ」の方がいいのか、それぞれ検討させていただく。

大橋委員

- ・ 27 ページに「スポーツの定義」があるが、これは決定ということでもいいか。それとも、運動は「運動」という定義をして、スポーツは「スポーツ」と言う定義をするという考え方はないのか。そうすれば、「運動・スポーツ」としてもおかしくはない。それを「スポーツ」とひとまとめに定義するがゆえに無理があるのではないかという感じがする。

稲葉課長

- ・ その点も含めて整理させていただく。

村越会長

- ・ これはスポーツ庁から出ている考え方を踏まえているということ。このように定義することで、実質的にスポーツに触れている人を増やすというか、意識を持ってもらうという考え方。そこを踏まえた説明をしていただければ良いと思う。

山之上委員

- ・ 27 ページ、「計画実現に向けた連携・協働体制の強化」について。「本市のスポーツ振興を推進する」という点で、全国大会を静岡市に誘致することは、そこでお金が落ちることや地域創生というはっきりとした利点がある。そういうことは、「本市のスポーツ振興を推進する」という貢献度的には当てはまっているのか。

村越委員

- ・ 全国大会の誘致などについて、スポーツ振興や貢献度という質問でよいか。

山之上委員

- ・ いわゆる施設をお借りするとか、体育館を使うとか、どうしても連携しないとできないというのが根底にある。そういう意味で、他県や全国から静岡市にきてもらい試合をやるということは、静岡市のスポーツ振興に役立っているのか。

稲葉課長

- ・ スポーツの交流人口の拡大を目指して大きな大会を誘致することは、具体的取り組み事業の中で掲載している。この 27 ページは、横割りというイメージで 3 つのポイントを示しており、2 つ目の「計画実現に向けた連携・協働体制の強化」は、色々な事業をやっていく中で、民間との連携や団体との連携を更に強化していくというものである。

山之上委員

- ・ 具体的なところで、支援や色々な形で行政にお願いすることが出てくるし、背景にある。静岡市は政令指定都市だが県の施設があり、県の施設との連携が考えられるが、その辺りのことをこの中で述べているかどうか。

稲葉課長

- ・ これから迎える大きな大会等は、県の施設と市の施設をうまく使いながらという考えがある。また、昨年度お示ししたスポーツ施設の配置適正化計画では、県の施設や民間施設を踏まえてどうあるべきかというところを示させていただいた。

望月課長

- ・ スポーツ交流課では、大きな大会などの事業を所管している。もちろん県の施設を使わなければ大きな大会はできないため、指定管理者を含めて県と連携を取りながら進めている。

設楽委員

- ・ 委員の皆さんに宣伝。2020年に、中体連の全国大会（柔道とバレーボール）が静岡で行われる。今後準備が進んでいくので承知していただければと思う。
- ・ 「資料2」の6ページにある「中学生の運動部活動の充実」が、いずれも野球に関する事業である。「中学校の部活動の充実」という施策なので、野球だけではなくもっとほかの種目に目を向けてもいいのかなと感じる。

鳴海委員

- ・ 「資料2」の「No.75 小学生体力・運動能力実態調査」について。去年あたりから現場では実施していないと思うので確認を。
- ・ 前に「スポーツ手帳」という事業があったが、その代わりに、「小学4年生に対するリーフレット配布」になっており、手帳よりいいなと思った。4年生というピンポイントに配るのが、使えそうなリーフレットだと思う。

大橋委員

- ・ 「資料2」の「担当課等」の書き方の確認。「指定管理者」という表現があるが、市の指定管理者として実施しているという意味合いでよろしいか。

三矢係長

- ・ 指定管理者として、指定事業あるいは自主事業でやっている事業という意味で「指定管理者」としている。

鳴海委員

- ・ 「資料2」の5ページ、「No.57 チャレンジなわとびの開催」について。小学校は授業の中でなわとびを準備運動などで取り入れることが多いので、例えば、このイベントに出てくる各種目を事前に学校に配布していただければ、授業でそれを取り扱うことができる。「できるようになったからこのイベントに出てみよう」というように、子どもたちのモチベーションが上がるので、ぜひ配っていただきたい。

村田委員

- ・ 施策の柱が6つあるが、これは、当初順番の意識はあったのか。新規事業などを数えてみると、柱3、4が多い。市の重みとして、今は柱1のスポーツツーリズムが最初にきているが、柱3、4を重点的に行うのならば順番を変える等の検討の余地があるのでは。

三矢係長

- ・ 従来のスポーツ推進計画16ページに構成表がある。元々、「観る」、「する」、「支える」という中で、「観る」が上、「する」が真ん中、「支える」が下、という順番になっている。
- ・ この中間見直しで、スポーツ実施率の底上げやターゲットを絞って実施していくという中では、主に柱3、4が直接的に強化が必要な部分である。そのため、元々の計画でいう「する」の部分が項目として多くなっている。その順番をどうするか、ということは今後検討させていただく。

村越会長

- ・ 中間見直しという性質もあるので、並び方は今のままで、柱の3と4が膨らんでいるということが見えることも重要ではないか。

内川委員

- ・ 総合型地域スポーツクラブをやっているが、静岡市では総合型地域スポーツクラブをこれからどのように位置づけしていくのかお聞きしたい。

室井主任主事

- ・ 総合型地域スポーツクラブについては、以前のスポーツ振興基本計画では、「クラブの設立数を増やしていく」という方向性であったが、現在の計画においては、「既存クラブの活動の充実を図る」という方針で施策を行っている。具体的事業としては、「資料2」13ページ、「No.158～162」に記載。総合型地域スポーツクラブの認知度向上を目的とした「総合型地域スポーツクラブ合同イベント」の開催や、スポーツ教室開催時に、総合型地域スポーツクラブの指導者を派遣するなどの取り組みを行っている。クラブの広報支援も含めて、今後も継続して行っていく。

<その他、意見等なし>

村越会長

- ・ 次回が最後の審議会で、建議書をまとめることになる。集約した形にはなるが、意見があればその中で伺います。
- ・ 以上ですべての議事が終了するため、議長の職を終わらせていただく。

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

- ・ 今後のスケジュールは、12月から1月にかけて、この改訂案について市民の皆さんにご意見を伺うため、パブリックコメントを行う。
- ・ 次回の審議会は、平成31年1月頃に開催予定である。今年度最後の審議会となるが、本日のご意見やパブリックコメントの意見を反映した「改訂版」と、これまでご審議いただいた内容をまとめた「建議書」について、確認をしていただく。

<閉会>